

2022

# パブリック・プレイス・コレクション

—公共空間アクティビティの促進事例集—

公益財団法人 都市活力研究所

一般社団法人 公園からの健康づくりネット



## 趣旨

「空間づくり」は、人間の滞留・歩行・回遊といった普遍的な行動を基準に置くべきであると考えられますが、これまでわが国のまちづくりにおいては、人々のアクティビティを誘引する「良好な空間づくり」が重視されてきたとはいえません。しかし、すぐには変えることができない現代の都市において、何から手をつけていけばアクティビティを活性化できるのか、またアクティビティを活性化させることを通じて、「都市にどのような価値を付け加えるのか」、「すでにある都市の抱える問題をどのように解決していくのか」という課題意識を持って取組が進められるかどうかは、単なる再整備にとどまらない、人々の活動のある都市を創出するための重要な視点であると考えます。

また、COVID-19 の対応を公共空間の役割の転換点と捉え、身近な公共空間の利用の増加による「にぎわい」の概念の変化に対応しながら、こちよい生活のためのしなやかなまちづくりに寄与する公共空間のあり方へと転換していくことが求められます。

これらの課題意識にもとづき、2019 年から 3 年間に渡って、公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人公園からの健康づくりネットによる共同研究を実施してきました。調査研究では、公共空間を人々が使いこなすこと（アクティビティ）が、公共空間の「質」を向上させ、都市が魅力的になるという前提の下に、公園、広場、道路、河川等の公共空間におけるアクティビティ促進に関するシーズを国内外から収集し、有識者や実務者のヒアリングなどを行いました。これらの調査研究の成果として事例集を取りまとめました。

本書では、各地が抱えていた課題からどのような思いで取組が実施されているのかという視点から、国内の 31 事例を「にぎわいを創り出す」、「活用を促す」、「場の再生」の 3 種類に分類し、海外の 3 事例と合わせた合計 34 事例を掲載しています。事例の中には、民有地であっても公共空間的な使い方をしているケースも含んでいます。取組の契機や課題としている内容について類似事例もあるなかで、団体や地域ごとの特色を踏まえた対応が行われています。また、一定の成果を残した事業からこれから取り組まれる事例まで、幅広く収集しています。

これから公共空間を整備・管理する立場となる方や、公共空間で「なにか活動したい」という思いを持っている方にとって、今後の取組の参考となれば幸いです。そして、今後さらに「良好な空間づくり」が重視された、こちよい街が形成されていくことを願います。

公益財団法人都市活力研究所  
一般社団法人公園からの健康づくりネット

# 目次

1. 巻頭言 .....	1
2. 特別寄稿 .....	2
<b>3. にぎわいを創り出す .....</b>	<b>3</b>
ササハタハツまちづくり .....	5
スマートウェルネスみつけ .....	7
堀川納屋橋地区水辺活用推進事業 .....	9
東横堀川・本町橋 .....	11
大阪・雑喉場ざこばの朝市 .....	13
尻無川河川広場を中心とした地域再生事業 .....	15
湊川公園手しごと市 .....	17
福山駅周辺エリアの再生 .....	19
みんなのひろば・もぶるテラス .....	21
<b>4. 活用を促す .....</b>	<b>23</b>
カシニワ制度 .....	25
パークイノベーションの推進に向けて(足立区) .....	27
下北沢ケージ .....	29
NPO 法人 NPObirth パークコーディネーター .....	31
練馬区農の学校 .....	33
農園付公園 .....	35
枚方宿くらわんか五六市(枚方市駅—枚方公園駅間) .....	37
公園レンタルクラウドサービス .....	39
EAT LOCAL KOBE FARMERS MARKET .....	41
parkrun (パークラン) .....	43

<b>5. 場の再生</b> .....	<b>45</b>
下北線路街空き地 .....	47
南池袋公園 .....	49
ホシノタニ団地.....	51
東横線跡地整備事業【廃線区間】.....	53
天理駅前広場コフフン（駅前広場の再整備） .....	55
北大阪健康医療都市・健都 .....	57
なんばひろば改造計画（なんば駅前周辺道路空間の再編） .....	59
いずみがおか広場 .....	61
泉大津ヘルシーパークー(仮称)小松公園整備事業ー.....	63
都心・三宮再整備葺合南 54 号線 .....	65
姫路駅北駅前広場（姫路駅北にぎわい交流広場）の再整備 .....	67
花畑広場.....	69
<b>6. 海外事例</b> .....	<b>71</b>
PlaNYC .....	73
Brooklyn Bridge Park .....	74
London National Park City .....	75

## 巻頭言

「パブリック・プレイス・コレクション—公共空間アクティビティの促進事例集—の刊行にあたって」

大阪府立大学大学院生命環科学研究科  
教授・加我宏之

都市の公共空間は、みんなのものでありながら、いつしか、誰のものでもなくなったのではないかといわれるようになり、寂しい公共空間も少なくない。人中心の近世のまちでは、広小路に、橋詰に、馬場や火除地に、境内に、また、雁木といった公共空間に人が集まり、屋台、辻講釈、大道芸を楽しみ、瓦版から、人から人へと情報が行き交い、まちで暮らす人々のアクティビティの場であった。

どこかよそよそしく、ドライな都市に物足りなさを感じ、もっとウエットで人間味のある都市とは、都市の都市化や人間中心とはといった議論をする中で、本調査は、3年間にわたり「人間中心の空間づくりに対する事例」、「プレイスメイキングを通じたアクティビティの活性化事例」、「人の多様性を、都市の力に変えるための取り組み事例」について、日本の風土の中で展開されている事例、また、元来、公共空間の使いこなしに長けている欧米の事例を探ったものである。

事例の収集を通じて、日本の事例を「にぎわいを創り出す」、「活用を促す」、「場の再生」としてカテゴライズしている。必ずしも、カテゴライズがうまくいっていないとお叱りを受けるかもしれないが、それは、公共空間の使いこなしがカテゴライズできるものではなく、多様であることの由縁であると思っている。

本事例集を見るにあたって、それぞれの事例で、どのように人が「場を読み解き」、人がどのように「場に働きかけ」、人がどのように「場を使いこなし」しているか、また、その時に、何がきっかけとなり、どのような登場人物が、どのような仕組みで取り組んでいるのか。各事例で新たな「コト」を積層させるにあたって、何が受け継がれ、何が新たに組み込まれたのか、それぞれの場での変わらぬものと変わったものの両方に着目してもらえるとありがたい。いずれの事例も、公園は公園らしく、広場は広場らしく、ストリートはストリートらしく、水辺は水辺らしく、まちはまちらしくと、場がもつ本来のポテンシャルが最大化されたものである。各事例から、場と人、人と人がゆっくりと時間をかけてつながっていく様を参考にいただき、都市での暮らしがさらに豊かになることを願っている。

## 特別寄稿

### 「みどりのおもてなしと One Green 活動」

一般社団法人テラプロジェクト  
理事長 小林昭雄

我が国は緯度・経度の特異性から、四季が明確で雨も多く温暖な気候のため、多様な植物が育ちます。住居の近傍に緑豊かな山野があり、折々の気候の変化は俳句や短歌に詠まれています。しかしながら、建造物が人間の生活や仕事の場であることを優先的に考える社会では、身近にみどりを感じる生活圏づくりは二の次になりがちです。

みどりの豊かさが不動産価値を高めるとすると、大阪府が呼びかける「みどりの風を感じる大都市大阪」というのは有用な呼びかけであり、その結果もたらされるみどりの環境は、海外からの観光客に安堵感を与えます。また、日本古来のおもてなし文化とも融和できるため、「みどりでおもてなし (Green Hospitality)文化」は QOL 向上に通じるスローガンになると思われます。そこで、私共が進める「One Green 活動」は、日本みどりのプロジェクト推進協議会の傘下にある多くの自治体や企業に注目されています。

「みどりでおもてなし文化」の浸透には、接客空間や日常の生活空間に、樹木や草花を配することの必要性を認める意識改革が重要です。オフィスや廊下、道路や地下道、駅構内などを植栽の場とすることで都市としての魅力を高め、そこに滞留する人々の心地よさの向上に寄与できます。

みどりでおもてなし活動を地域に定着させるためには、市民参加のしかけが必要です。私共が梅田の茶屋町地区で実践している「One Green 活動」である「植育から食育へ」の活動では、レモンの植育ボックスの設置に賛同して下さる企業の支援を得て公道に植育ボックスを置き、その果実を採取してレモンジャムづくりを実践してきました。こどもたちにボックスのケアを依頼し、手間賃を支払い、収穫したレモンを使ってレモンジャムをつくり、スポンサー企業に返礼品としてお返しするビジネスモデルを考案しました。この試みは、子どもが勤労の尊さを楽しみながら学ぶ機会でもあります。「育て、作り、食する」といった活動は子どもたちの参加意欲を助長します。このように「コトづくり・モノづくり」と「みどり化」を融合する取り組みで梅田エリアを「みどりでおもてなしの聖地」として作り込むことができます。

都市のみどり化がこのような「おもろい！儲かる！」という発想で進展することで、住民参加の新しい形が生まれて定着していくというモデルは新しいまちづくりの参考になるのではないのでしょうか。

## 1. にぎわいを創り出す

公園、広場、道路、河川等の公共空間において、アクティビティ（人間の活動）を誘引する取組の事例を「にぎわいを創り出す」という視点でとりあげます。

ここでとりあげるのは、新たに「にぎわい」を創出しようとする事例もあれば、かつての「にぎわい」を取り戻そうとする事例も含まれています。いずれも「にぎわい」が目指されているものですが、コロナ禍により「にぎわい」の概念も変化しているものと考えられます。

単に人が集まることを「にぎわい」として目標像に据えるのではなく、人が集まりにぎわうことによってもたらされる価値に着目することが重要です。たとえば、社会的なウェルビーイングの向上や、まちの活性化、経済的な効果などが「にぎわい」によりもたらされるでしょう。

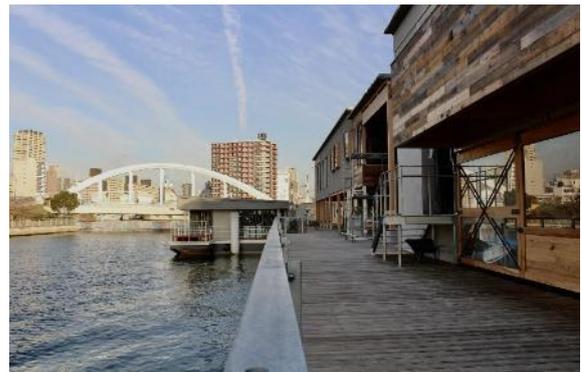
「にぎわい」のその先をしっかりと見通すことが大切であり、「にぎわい」がゴールではありません。これらの事例からは、こうした新しいアクティビティのシーズが読み取れるものと期待しています。



## 「にぎわいを創り出す」目次

---

ササハタハツまちづくり.....	5
スマートウェルネスみつけ .....	7
堀川納屋橋地区水辺活用推進事業 .....	9
東横堀川・本町橋 .....	11
大阪・雑喉場ざこばの朝市 .....	13
尻無川河川広場を中心とした地域再生事業 .....	15
湊川公園手しごと市 .....	17
福山駅周辺エリアの再生 .....	19
みんなのひろば・もぶるテラス.....	21



# ササハタハツまちづくり

都心近接の私鉄沿線で市民協働・官民協働によるまちづくりプロジェクト

所在地	東京都渋谷区
主要部 面積等	笹塚・幡ヶ谷・初台・本町地域
事業主体	渋谷区都市整備部まちづくり第一課
おもな用地	とくに指定せず

## 【位置図】

© OpenStreetMap contributors



## 【概要】

○京王線笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅の頭文字をとり「ササハタハツ」と称したエリアで、住む人、働く人、学ぶ人、地域に関心のある人々が集まり、自発的なまちづくりプロジェクトの企画や実施を通じて、地域コミュニティ活性化とまちづくりを進める。

## 【契機】

○渋谷区北部の京王線笹塚駅、幡ヶ谷駅、初台駅の沿線「ササハタハツ」は、新宿駅への利便性が高い住宅地として発展したエリアである。このエリアの活性化に向けて、2017年から市民協働・官民協働による「地域コンセプトの立案」と「実現アイデアの共創」のもとにササハタハツプロジェクトが進められた。

○2年かけて「ササハタハツまちづくりフューチャーセッション」の実施を重ね、プロジェクトの実証実験等が行われるまでとなった。しかし、プロジェクトを進めるなかで、住民主体のセッションだったことからプロジェクトを共に動かすことができるノウハウを持った団体との連携が弱いことが課題として挙げられた。地域の事業者等との連携を深めるため、新たなメンバーによるセッション開催や、これまでの成果の発信、これらを結びつける組織として、「(仮称)まちラボフューチャーセッション」を開催し、2020年に「ササハタハツまちラボ」を設立した。

## 【経過】

2017年	ササハタハツまちづくりフューチャーセッション開始
2018年	緑道ブロック、水道道路・広域ブロック分科会の立ち上げ、「初台緑道マルシェ」開催
2019年	「ササハタハツ(仮称)まちラボフューチャーセッション」開催
2020年	「ササハタハツ会議」開催、「ササハタハツまちラボ」設立 「ササハタハツピープルまちづくりサポート(ササハピ)」創設
2021年	「ササハタハツエリアビジョン検討委員会」設立

## 【現況】

○ササハタハツエリアの将来像を描く「ササハタハツエリアビジョン」策定に向けて取組を進めている。策定の検討にあたって、公募により委員を選出したササハタハツエリアビジョン検討委員会を設立し、2021年7月に第1回目を、9月に第2回目を開催した。全4回に渡って開催し検討を重ねていく。

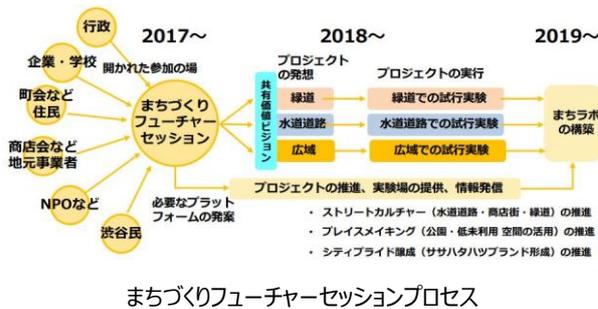


第1回ササハタハツエリアビジョン検討委員会

【事例の特徴】

○ササハタハツまちづくりフューチャーセッション

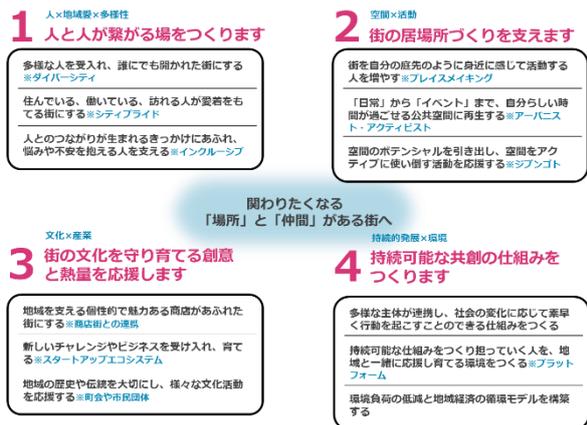
フューチャーセッションは「人のつながりづくり」と「参加型プロジェクト推進」を目的とし、街歩きやワークショップ、トークセッションなどが行われている。2017年は、3地域の「共有価値ビジョン」、「新たなコミュニティ」、「にぎわいプロジェクト」の実現から、新たなアイデアが主体的・持続的に生まれる環境が生み出された。2018年には、緑道ブロック、水道道路・広域ブロックの二つの分科会を経て実現したプロジェクトについて報告・情報共有が行われた。2019年では、長期的な視点でまちの活性化とコミュニティ形成につなげ、新たなサービスや事業の創造を目指すまちラボの検討を進めるため、「ササハタハツ(仮称)まちラボフューチャーセッション」として実施された。



プロジェクト実証実験「初台緑道マルシェ」

○ササハタハツまちラボ

渋谷区、京王電鉄(株)、渋谷未来デザインが共同で設立した。行政・区民・企業等をつなぎ、様々な人たちが関わって作られるササハタハツまちづくりの「共創プラットフォーム」である。また、住民のアイデアを実現に導き、持続的に支える活動基盤でもある。コミュニティ活動支援・運営事業として市民共創プロジェクトの実装に向けた支援、官民連携事業として玉川上水旧水路緑道と水道道路を軸とした公共空間利活用の検討やそれらの動向を踏まえたエリアビジョンの策定などに取り組んでいく。



まちラボの活動指針

○ササハタハッピーブルまちづくりサポート(ササハピ)

ササハタハツで活動する方の主体的な取組みを応援する事業として2020年に創設された。「登録制度」と「認定制度」によりプロジェクトを支援していく。下図参照。2021年度10月1日現在、計15プロジェクトが稼働中している(認定プロジェクト7プロジェクト、登録プロジェクト8プロジェクト)。今年度、プロジェクトリーダー会議\*1を6月(対面方式)と9月(ウェブ会議)に実施した。9月の会議では、認定プロジェクトのササハピ発足時からの進捗報告と任意で登録プロジェクトのリーダーからは告知・報告等があった。今年度は、12月と3月頃にもプロジェクトリーダー会議を予定しており、3月には、ササハピが一旦満期を迎えることから、最終報告会を予定している。

\*1 プロジェクトリーダー同士の繋がりや、モチベーション向上等に繋げるためのワークショップ。

<p><b>認定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定されれば、登録で受けられる支援のほかに、金銭面での支援を受けることができる。</li> </ul>	<p><b>登録</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト内容、情報発信、周知の相談ができる。※金銭面での支援を受けることはできない。</li> </ul>
--	--

【参考資料】

ササハタハツまちラボ HP、渋谷区役所 HP「ササハタハツ会議」「ササハタハツまちづくりフューチャーセッション開催報告」「ササハタハツまちづくり」『ササハタハッピーブルまちづくりサポート(ササハピ)の募集について』(ササハタハツまちラボ) プレスリリース「ササハタハツまちラボを設立」2020年7月20日

# スマートウェルネスみつけ

人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れる「健幸」なまちづくり

所在地	新潟県見附市
主要部面積等	77.91 km <sup>2</sup>
事業主体	見附市企画調整課
おもな用地	—

## 【位置図】

© OpenStreetMap contributors



## 【概要】

○体の健康だけではなく、人々が生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れる状態を“健幸＝ウェルネス”と呼び、食生活・生きがい・健(検)診・運動のこれまでの健康施策に加え、「健幸」という理念をハード整備や地域経済、教育などすべてのまちづくりの要素広げ、住んでいるだけで健やかに幸せに暮らせるまちの実現に向け、施策を実践している。

## 【契機】

- 少子高齢化の進展により、高い水準で伸びを続ける医療費の抑制と社会活力の維持向上のため、健康寿命の延伸は今や国レベルでの緊急課題となっている。見附市では「日本一健康なまち」を目指し、1999年度から「いきいき健康づくり事業」を開始した。さらに、2003年度に健康増進事業を体系的にまとめた「いきいき健康づくり計画」を策定し、いち早く健康施策に取り組んだ。
- 2006年に「第4次見附市総合計画」を策定し、基本構想における基本理念や都市の将来像の実現に向けて、重点プロジェクトに「スマートウェルネスみつけの推進」を位置付けた。2016年からは「第5次見附市総合計画」において「スマートウェルネスみつけ」を都市の将来像として掲げ、「健幸」の理念をまちづくりの要素全体に広げて取り組みを進めている。

## 【経過】

- 1999年 「いきいき健康づくり事業」開始
- 2003年 「いきいき健康づくり計画」策定
- 2005年 「見附市ランドデザイン」策定
- 2006年 「第4次見附市総合計画」策定(10年間の「まちづくりの基本理念」と「都市の将来像」を定めた)
- 2009年 「Smart Wellness 首長研究会」発足
- 2011年3月 「第4次見附市総合計画 後期基本計画」策定
- 12月 「健幸長寿社会を創造するスマートウェルネスシティ総合特区(※)」指定
- 2012年3月 「見附市健幸基本条例」「見附市歩こう条例」制定
- 12月 「見附市道の技術的基準を定める条例」制定
- 2013年 スマートウェルネスみつけを推進するための計画「健幸づくり推進計画」策定  
「特定地域再生計画」策定
- 2014年 「都市部と村部が持続できる健幸都市の地域再生計画」が国に認定
- 2015年 「見附市第1期総合戦略策定」策定
- 2016年 「第5次見附市総合計画」策定(2025年までの10年間のまちづくりの方向性を定めた)
- 2019年 「SDGs 未来都市」に国より選定
- 2021年 「第5次見附市総合計画後期基本計画」・「見附市第2期総合戦略」策定

※地域発の先駆的なチャレンジを国、自治体、企業が協働して実現していく制度。全国の7市2団体が指定されている。

## 【現況】

- 2021年3月30日に第5次見附市総合計画の後期基本計画を策定した。「スマートウェルネスみつけ」の実現など、これまでの計画の基本的な考え方を骨格とし、社会経済環境の変化も踏まえ、これまで積み上げてきたまちづくりをさらに発展させていく。

## 【事例の特徴】

○スマートウエルネスみつけの実現に向けて、市民がイメージを共有し、街づくりを進めていくために分野別に施策を整理し、「人と自然が共生し健やかに暮らせるまち」、「産業が元気で活力のあるまち」、「安全安心な暮らしやすいまち」、「人が育ち 人が交流するまち」の4つを基本目標に定め、同時並行にそれぞれの分野の取組を進めている。

### ○施策の指標(目標)管理

各事業について 2025 年度までの目標を設定した。毎年度、各事業の実績報告をもとに、外部有識者で構成される「見附市まちづくり総合会議」および、庁内の「行政評価委員会」の二重のチェック体制をとり、事業の進捗評価・検証を実施している。

評価組織からの意見や助言を踏まえ、次年度以降の事業改善につなげる PDCA サイクルを繰り返し、事業目標の達成に向け管理を行っている。



### ○第5次見附市総合計画(後期)「個別施策」

「スマートウエルネスみつけ」の実現に向け、分野別に施策を整理した4つの都市の将来像を定め取り組んでいる。

#### 「人と自然が共生し健やかに暮らせるまちづくり」(健康福祉課、こども課、まちづくり課、市民生活課 など)

健康寿命を延ばすための健康づくりを推進、地域包括ケアシステムの体制づくりの推進、高齢者の社会参加の促進、資源の有効利用促進、個性的な空間整備 など

#### 「産業が元気で活力のあるまちづくり」(地域経済課・農林創生課 など)

新しい事業展開支援、見附型地域産業の育成支援、観光プロモーション強化、雇用対策推進 など

#### 「安全安心な暮らしやすいまちづくり」(企画調整課・建設課・まちづくり課 など)

災害に強いまちづくりの推進、コンパクトシティの形成と誘導、地域公共交通の利便性向上 など

#### 「人が育ち 人が交流するまち」(こども課、まちづくり課、学校教育課、教育総務課、企画調整課 など)

仕事と子育てが両立できる環境整備、人間性と社会性の育成を図る、地域連携、文化財の保護と活用、快適な学びの空間・充実した教育環境整備、市民と行政の協働推進、関係・交流人口拡大 など

### ○公共空間アクティビティの実践事例

#### 『社会参加(外出)できる場づくり(ソフト)』

生きがい・社会貢献が行える取組として、公園の日常管理を行う「ナチュラルガーデニングクラブ(2021年度会員123名)」、地域コミュニティの設立(2018年に市内11地域全域で組織完了)、健康サポートクラブによるナイトウォーキング(2019年度559人参加)や早朝ラジオ体操(2019年15,742人参加)などを実施している。

#### 『地域活性化モデルケースの取組「中心市街地活性化」』

「まちなか賑わい関連事業」の一環としてイベント支援が行われ、今町商店街で市内外の手作りの品を販売する「手しごと市」や、商店街を歩行者天国にして物品・飲食販売を行う「まちなかマルシェ」などを開催し、商店街の活性化に取り組んできた。2019年の市内中心市街地でのイベントには33,530人もの来客があった。



早朝ラジオ体操

### 【参考資料】

見附市 HP「スマートウエルネスみつけ」『健幸づくり推進計画』2014年3月 『「地域活性化モデルケース」の5年間の総括について 資料1~3』2019年 『健幸づくり推進計画の指標管理について 資料2-1』2019年 『第5次見附市総合計画』2016年3月 『第5次見附市総合計画後期基本計画』2021年3月

# 堀川納屋橋地区水辺活用推進事業

河川敷地を利用したうおいと活気のある水辺まちづくりの推進

所在地	愛知県名古屋市中区、中村区
主要部面積等	錦橋～納屋橋～天王崎橋間両岸の遊歩道、親水広場
事業主体	名古屋市
おもな用地	河川敷

## 【位置図】

© OpenStreetMap contributors



## 【概要】

○納屋橋地区の河川敷地の利用によって、都市にうおいと活気に満ちた水辺空間を創出し、にぎわい創出や魅力あるまちづくりを目指す。

## 【契機】

○江戸時代のはじめに名古屋城の築城にあわせて開削され、名古屋市の中心部を流れる堀川は、名古屋市の自然・景観・うおい等において重要な役割を果たしている。中でも、納屋橋は名古屋駅と栄地区を結ぶ広小路通と堀川との交差点にあたることから、市では多くの市民や観光客が訪れるよう、魅力的なイベント等が開催される場とすることを目指しハード、ソフトの取り組みを進めている。

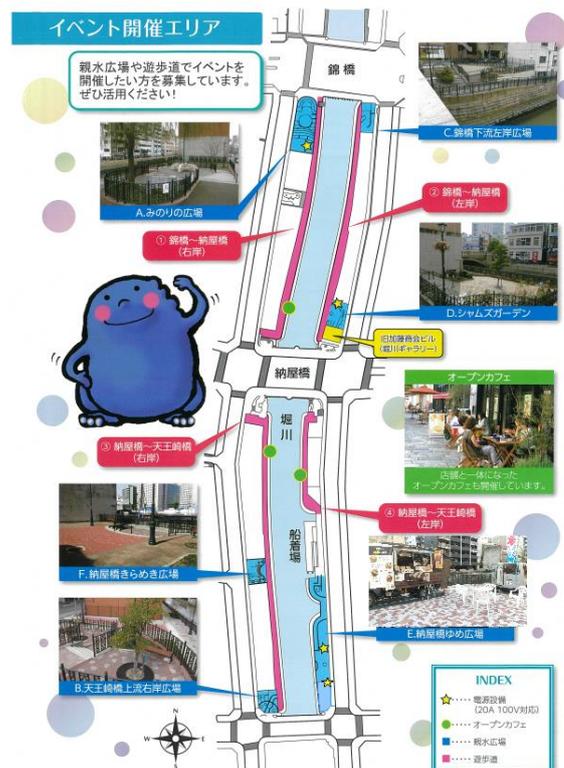
## 【経過】

- 2005年 堀川納屋橋地区における水辺活用事業の社会実験開始
- 2012年 同事業の本格実施
- 2019年 堀川の魅力向上とにぎわいづくり 社会実験を実施（水辺活用イベント、ライトアップ）
- 2020年 堀川の魅力向上とにぎわいづくり ライトアップ整備着手

## 【現況】

○堀川の錦橋～納屋橋～天王崎橋間の納屋橋地区の親水広場及び遊歩道において、「水辺活用推進事業」が展開されている。（公財）なごや建設事業サービス財団が名古屋市から一括して河川敷地の占用許可を受け、地域関係団体等で構成される納屋橋地区河川敷地利用実行委員会（後述）を運営しながら、イベント利用者や民間事業者に河川敷地を貸し出す事業方式が取られている。

○現在、河川敷地でのオープンカフェやイベント等を実施する水辺活用推進事業のほか、市有地における民設民営施設の運営、国登録有形文化財である旧加藤商会ビルでのギャラリー運営の3事業が行われている。



イベント開催可能エリア(2021年8月時点)

【事例の特徴】

○2005 年から 7 年間にわたり、オープンカフェやイベント実施を可能とする社会実験を実施し、2012 年から本格実施し、週末を中心にイベント等を実施している。

○水辺活用イベント

2019 年には、水辺に張り出した親水テラスを設置・活用した飲食イベントを社会実験として実施した。



イベント



水辺活用イベント

○ライトアップ

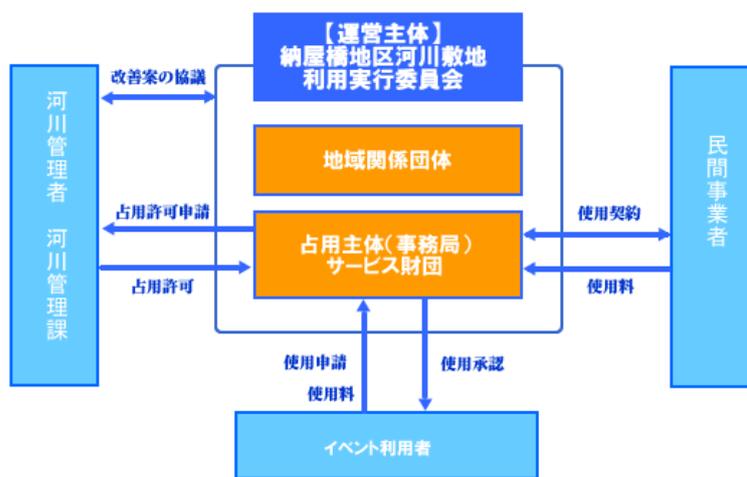
堀川納屋橋地区の持つ大正モダンな雰囲気と調和するライトアップ整備を、2020 年から 2022 年にかけて護岸や橋、樹木を対象に実施している。



○堀川納屋橋地区河川敷地利用

実行委員会

堀川納屋橋地区に隣接する地域と当該地区河川敷地の占用主体である(公財)なごや建設事業サービス財団が協働し、河川敷地の利活用を通じた地域の魅力向上・魅力発信を行い、水辺空間を中心としたまちのにぎわいと人の流れの創出を図る事を目的とした運営主体として2012年4月に発足した。



体制図

【参考資料】

公益財団法人なごや建設事業サービス財団 HP、名古屋市役所 HP「堀川納屋橋地区水辺活用推進事業」『堀川におけるさらなる魅力創出に向けた民間活力導入に関するサウンディング型市場調査 実施要領』2019 年 10 月、なやばしランブリン Facebook・チラシ、堀川ウォーターマジックフェスティバル HP

# 東横堀川・本町橋

水都大阪の魅力向上のための新たな水辺の拠点「本町橋 BASE」の創出

所在地	大阪府大阪市中央区
主要部面積等	陸上 南:約 1,400 m <sup>2</sup> 、北:約 1,100 m <sup>2</sup> 水面 南:約 200 m <sup>2</sup> 、北:約 740 m <sup>2</sup>
事業主体	β本町橋共同事業体
おもな用地	都市公園、河川

## 【位置図】

© OpenStreetMap contributors



## 【概要】

○「水の回廊」の大阪城・中之島と道頓堀をつなぐ位置にある本町橋船着場周辺地域に、観光客などが憩う舟運と連動した東横堀川初の新たな水辺の拠点「本町橋 BASE」を創出するためβ本町橋を建設し、まちの活性化と水都大阪の魅力向上をめざす。

## 【契機】

○水運に支えられて発展した大阪は、明治のころには「水の都」と呼ばれていた。2001年、第3次都市再生プロジェクトに「水都大阪の再生」が採択されて以降、行政・企業・市民が連携し、水都大阪の再生に取り組んできた。2006年、大阪商工会議所が大阪市に要望し本町橋周辺に船着場が設置されたが、イベント開催時などの限定的な利用にとどまっていた。2012年、大阪商工会議所が「まちなかを楽しむ小型船基地『本町橋 BASE』」をコンセプトとした「東横堀川(本町橋周辺)における水辺の賑わい拠点づくり提言書」をとりまとめ、「大阪府市都市魅力戦略」において重要なプロジェクトの一つと位置づけられるように働きかけた。

○世界の都市間競争に打ち勝つ都市魅力を創造・発信するため、大阪府市共通の戦略として策定された「大阪都市魅力創造戦略」において「水と光のまちづくりの推進」が重点取組のひとつに位置づけられた。これまでの「水都大阪の再生」に向けた府・市・経済界の取組を民主導の新たな推進体制により、継承、加速させることで、世界中から人・投資を呼び込む「水と光の首都大阪」ブランドの確立を目指すこととした。

## 【経過】

2001年	内閣官房都市再生本部都市再生プロジェクトに「水都大阪の再生」認定
2006年	地域住民・地元企業などにより「東横堀川水辺再生協議会(通称: e-よこ会)」設立
2012年 6月	大阪商工会議所が「東横堀川(本町橋周辺)における水辺の賑わい拠点づくり提言書」をとりまとめる
12月	府と市が「大阪都市魅力創造戦略」策定
2013年 5月	「第1回水と光のまちづくり推進会議」開始
2015年	大阪商工会議所が市に要望し、本町橋に東横堀川初の船着場がオープン
2016年 6月	「第1回本町橋・水辺の賑わい拠点づくり検討会」開始
11月	「大阪都市魅力創造戦略2020」策定
2017年 2月	「水都大阪コンソーシアム」設立
2019年 10月	「本町橋 BASE」にぎわい創造拠点創出・管理運営事業者募集
2020年 2月	事業予定者を「本町橋 BASE UCC 共同事業体」に決定
2021年 7月	事業体名を「β本町橋共同事業体」に変更
8月	「β(ベータ)本町橋」オープン

## 【現況】

○2021年8月、公園敷地内に「β本町橋」をオープンした。東横堀川水辺再生協議会の活動を発展させた取組を行うことや水辺のリビング・船の待合としての利用を想定しており、テイクアウトの飲食販売なども行われている。

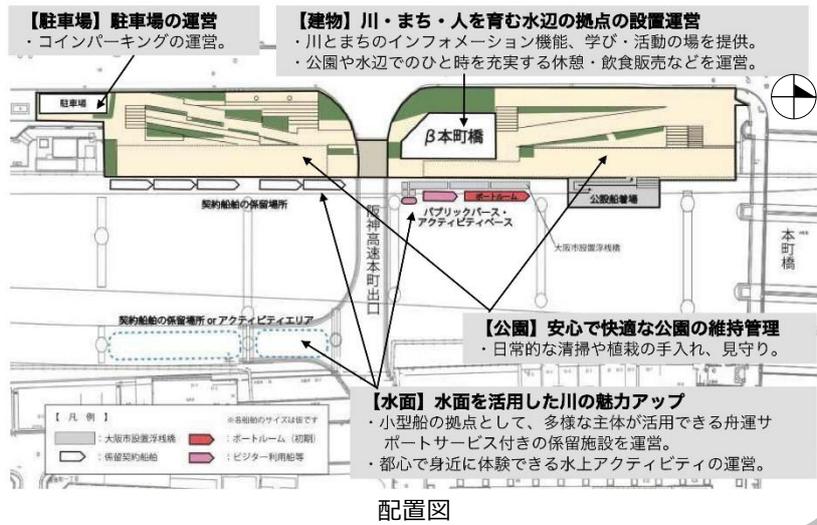


イメージ図

【事例の特徴】

○本町橋 BASE

「本町橋 BASE」とは、水辺のにぎわい創造拠点の名称である。対象区域は「水の回廊」の大阪城・中之島と道頓堀をつなぐ東横堀川にかかる本町橋北側で、公共船着場と隣接している。河川区域である本町橋北側右岸「東横堀川緑道公園」（都市計画公園）と、一級河川東横堀川の本町橋下流の指定された水面区域を整備・運営することによって「本町橋 BASE」を創出する。



○β 本町橋

都心の水辺・公園を最大限活用して「遊ぶ」「働く」「学ぶ」「暮らす」ことの可能性を広げるための施設である。2階建ての木造建築であり、延床面積は282㎡程度である。1階は公園と水辺に面し、船やまちの情報を案内するインフォメーション機能を兼ねたキオスクがある。また、公園や水辺を楽しむための食プログラムなどを行い、川・まち・人をつなぐ場所となる。2階は道路に面し、レンタルスペースとして運営しながら、大人から子どもまで学べる機会を提供する公益的なプログラムを提供する。そのほか、動力船・人力船・マリナー・キッチン・屋台など、多彩なツールをそろえ、川とまちの多様な機能と人々をつなげる施設となる。



水上アクティビティ



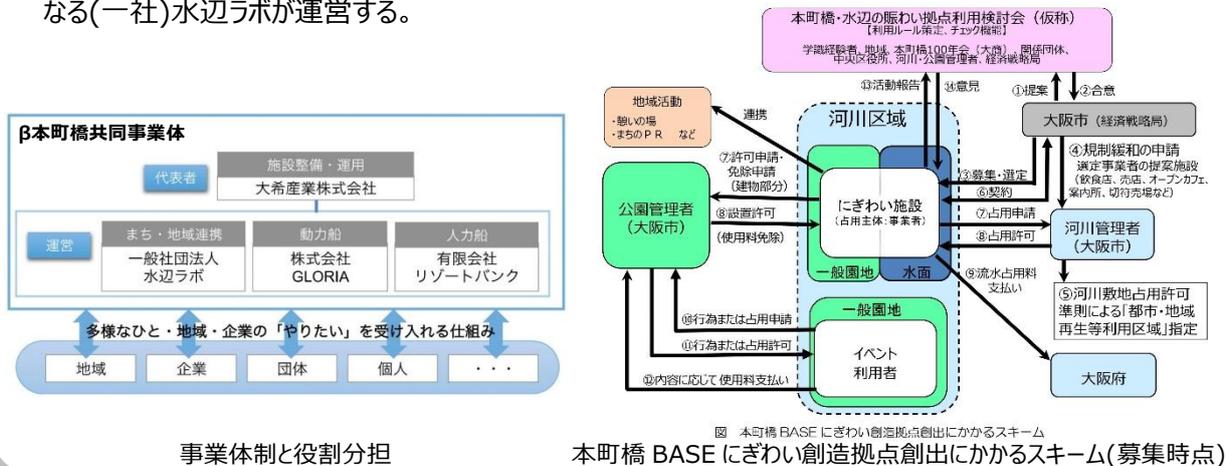
クルージング体験



ワークショップ

○事業体制

運営管理は、大希産業株式会社を代表とする「β本町橋共同事業体」が行い、運営事業期間は20年間である。β本町橋は、地域住民・地元企業などにより結成された東横堀川水辺再生協議会メンバーからなる(一社)水辺ラボが運営する。



【参考資料】

大阪府役所 HP「β本町橋(「本町橋 BASE」にぎわい創造拠点創出・管理運営事業)」 『「本町橋 BASE」にぎわい創造拠点創出・管理運営事業者募集要項』2019年 『(資料2)「本町橋 BASE」にぎわい創造拠点創出・管理運営事業 概要』2020年8月20日 報道発表資料「新たな水辺のにぎわい拠点「β本町橋」がオープンします。」2021年7月12日、大阪商工会議所 HP 記者発表資料「水辺の賑わい拠点づくりについて」2012年6月11日 記者配布資料「水辺のにぎわい拠点「β本町橋」の開設について」2021年7月12日、β本町橋 HP